

基礎分野（15単位）

1. 基礎分野の考え方

看護の対象は、社会の中で生活をしている人間である。個人が現在の生活に至る過程は個々様々であり、その経過の中で形成されてくる価値観も個人により異なり多様化している。看護にたずさわる者として、一人一人の人間の生命と人権を尊ぶ姿勢を基盤に、幅広い知識を持って人間を多角的に深く捉える必要がある。そのためには、知識と感性が豊かな人間として成長することが求められる。

少子超高齢社会、医療技術の進歩、医療提供の場の変化など、医療を取り巻く環境は変化している。そのような中で、国民は健康に関連する問題の解決に向けて、医療職に対し資質や能力の一層の向上を求めている。医療職の中でも対象者に、一番近い存在である看護職に対しての期待は大きい。期待に応えるためには、人に対する深い洞察力、人との相互作用の中から培われるコミュニケーション能力、自律して考え判断できる能力、創造的な発想のできる能力、先見的で柔軟な思考力、専門職としての倫理観の形成が必要となる

そのため、基礎分野では社会生活を営んでいる看護の対象である人間に対する理解を深められる内容とする。また、科学的及び主体的な判断を身に付け、国際社会、情報社会に対応できる能力を養う内容とする。

2. 目的

看護の対象である人間を統合的に理解するための知識を学ぶと共に、科学的思考力、コミュニケーションの能力等を高め、主体的及び倫理的判断のできる能力を養う。

3. 目標

- 1) 科学的思考力を高めるための基礎的知識を学ぶ。
- 2) 社会の中で生活する人間を理解する。
- 3) 人間対人間の相互作用としてのコミュニケーションの基礎的知識を学ぶ。
- 4) 人権の重要性を学び、人権意識を持てる。
- 5) 看護職としての倫理的判断ができるための基礎的知識を学ぶ
- 6) 国際化、情報化へ対応するための基礎的知識を学ぶ

4. 科目

情報の基礎	心理学	英語Ⅰ
統計学	教育学	英語Ⅱ
生活科学	社会学	体育Ⅰ
論理学	人間関係論	体育Ⅱ
倫理学	文化人類学	

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	情報の基礎 1 単位 15 時間	
開講時期	1 年次 後期	
担当教員	上藤一郎・石井 渡	
<p><科目のねらい> 情報化時代の今日、医療・看護の分野においても電子化された情報（データ）を処理する技術は、必要不可欠なものとなっている。そこでこの授業では、情報をめぐるさまざまな技術の考え方や基本について学ぶ。</p> <p><到達目標> 医療・看護の現場における情報処理の役割を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護情報を扱う際のセキュリティと倫理上の問題を理解する。 2. 演習を通じてデータベース作成の基本を身に付ける。 		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	医療と情報	講義（石井）
2 回目	情報の倫理とセキュリティ（1）	講義（上藤）
3 回目	情報の倫理とセキュリティ（2）	講義（上藤）
4 回目	データサイエンスの基本ーパソコンの基本操作 -	講義・演習（上藤）
5 回目	データベース構築（1）	演習（上藤）
6 回目	データベース構築（2）	演習（上藤）
7 回目	データベース構築（3）	演習（上藤）
8 回目	終了試験	（上藤）
評価方法	毎回の課題（確認問題）と期末試験で総合的に成績評価する。	
受講生に対するメッセージ	授業の内容はそれほど難しいものではありませんが、予習・復習は欠かさずしてください。	
テキスト	特に指定しない。毎回、資料を配布する。	
参考書	授業中適宜指示する。	

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	統計学 1単位 30時間	
開講時期	2年次 前期	
担当教員	上藤一郎	
<p><科目のねらい></p> <p>医療・保健分野の研究では、データによる統計的実証分析が不可欠です。そこで、この授業では、データサイエンスの視点から、医療・保健分野における調査・分析に必要な統計学の基礎的知識を学びます。</p> <p><到達目標></p> <p>1. コンピュータによるデータ解析（EXCELを使ったデータ解析）の実習を通じて、データの特徴や性質を重視し、それらを具体的な問題解決の手段として活用できる能力を身につける。</p> <p>なお、このような目標が達成できているかどうかを確認するため、授業の最後では、この授業の学習成果をPowerPointによるスライドを使って班別にプレゼンテーションしてもらいます。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	データサイエンスの基本（1）－パソコンの基本操作－	講義
2回目	データサイエンスの基本（2）－さまざまなデータ－	講義・実習
3回目	データサイエンスの基本（3）－EXCELの基本－	講義・実習
4回目	データの集め方－ランダムサンプリング－	講義・実習
5回目	統計データの集計（1）－単純集計－	講義・実習
6回目	統計データの集計（2）－クロス集計－	講義・実習
7回目	統計グラフの作成（1）	講義・実習
8回目	統計グラフの作成（2）	講義・実習
9回目	統計データの要約－平均と散布度－	講義・実習
10回目	統計データに基づく推測（1）－平均値の区間推定－	講義・実習
11回目	統計データに基づく推測（2）－平均値の検定－	講義・実習
12回目	質的データの分析－カイ2乗検定－	講義・実習
13回目	量的データの分析－回帰分析－	講義・実習
14回目	パワーポイントの使い方	講義・実習
15回目	パワーポイントによるプレゼンテーション	実習
評価方法	コンピュータによる毎回のデータ解析の実習と授業最後のプレゼンテーション（50%） 期末テスト（50%）	
受講生に対するメッセージ	パソコンの操作や計算は面倒で煩雑なものですが忍耐強く取り組んでください。	
テキスト	上藤一郎・他3名『データサイエンス入門－Excelで学ぶ統計データの見方・使い方・集め方－』オーム社	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	生活科学 1単位 15時間	
開講時期	1年次 前期	
担当教員	山田久美子	
<p><科目のねらい> 人間を取り巻く環境と日常の生活にみられる自然現象の法則性を学び、看護動作、看護技術を科学的に考える。</p> <p><到達目標> 1. 看護動作、看護技術を科学的に考えることができる。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	看護と力学について具体例を中心に学ぶ	講義
2回目	看護のボデイメカニクスを筋力との関係から学ぶ	講義
3回目	圧力の基本と水圧・気圧の看護への応用を学ぶ	講義
4回目	圧力の応用・呼吸器と吸引の仕組みを学ぶ	講義
5回目	点滴の原理と具体的な仕組みを学ぶ	講義
6回目	ポンプとしての心臓と血液循環の物理を学ぶ	講義
7回目	感覚器機能の物理的原理を学ぶ	講義
8回目	体温制御のシステムを学ぶ	講義
評価方法	授業終了後に2000字以上のレポートを提出	
受講生に対するメッセージ	看護の職務の中で必要な物理的基礎知識を理解しておいて欲しい。災害時の看護に役立つ。	
テキスト	看護学生のための物理学 第5版 医学書院	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	論理学 1単位 30時間	
開講時期	1年次 前期	
担当教員	高橋章仁	
<p><科目のねらい></p> <p>本講義は、論理に関する知識の習得のみを目指すものではない。論理は、自分の頭で考え、自分の言葉で語ることの補足としてはじめて意義をもつ。それゆえ、なるべく多くの文章に触れ、その論理構造を解析することで論理的に考えることの意義と方法を学ぶ。また、問題演習を通じて論理的思考力の強化と論理的伝達力の熟成を図る。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的に考えることの意義と方法がわかる。 2. 論理的思考力の強化と論理的伝達力の熟成を図ることができる。 		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	論理とは何か	講義
2回目	接続の論理(1) 根拠と解説	講義と問題演習
3回目	接続の論理(2) 付加と転換	講義と問題演習
4回目	接続構造	講義と問題演習
5回目	論証の構造(1) 主題・問題・主張	講義と問題演習
6回目	論証の構造(2) 根拠と導出	講義と問題演習
7回目	演繹と帰納	講義と問題演習
8回目	否定の論理(1) 連言文と選言文	講義と問題演習
9回目	否定の論理(2) 全称文と存在文	講義と問題演習
10回目	条件構造	講義と問題演習
11回目	批判の論理(1) 意味と論証	講義と問題演習
12回目	批判の論理(2) 異論と批判	講義と問題演習
13回目	小論文の構造	講義と問題演習
14回目	小論文の書き方	講義と問題演習
15回目	終了試験	試験
評価方法	筆記試験 70% ・ 課題提出内容/出席/授業態度 30%	
受講生に対するメッセージ		
テキスト	『新版 論理トレーニング』産業図書	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	倫理学 3単位 30時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	竹之内裕文	
<p><科目のねらい></p> <p>7つの看護領域（基礎、小児、母性、成人・老年、地域・在宅、精神、看護の統合と実践）でのグループ実習と連動して授業を進める。各グループからの実習報告に基づいて、また7つのテーマ（「対話」、「死別」、「倫理」、「死」、「在宅」/「病院」、「チーム」、「看護」）について、人権を尊ぶ姿勢をもち、対話を通じた探究を進める。それを通して本学の5つの教育目標を達成する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を尊び、個人をかけがえのない存在として尊重する態度を養う。 2. 看護の対象である人間を総合的に理解する能力を養う。 3. それぞれの健康段階にある人に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、実践できる基礎的能力を養う。 5. 看護の実践者として向上心・研究心を養い、主体的学習態度を身につける。 		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	ガイダンス（到達目標、具体的な進め方、成績評価、対話の準備） 「対話」をめぐる対話～対話するとはどういうことか？対話にはどのような意義があるか？	講義・演習
2回目	チーム・ビルディングとダイアログ～「チーム」と「対話」の意義をめぐる	講義・演習
3回目	絵本を題材にした対話～『かないくん』（谷川俊太郎作・松本大洋絵）	講義・演習
4回目	実習の報告に基づく対話①	講義・演習
5回目	実習の報告に基づく対話②	講義・演習
6回目	実習の報告に基づく対話③	講義・演習
7回目	「倫理」をめぐる対話～看護師には、どのような「倫理」が求められるか？	講義・演習
8回目	「死」をめぐる対話～患者の死を家族とともに、どのように受けとめるか？	講義・演習
9回目	「在宅」/「病院」をめぐる対話～患者が身をおく場として、自宅、施設、病院にはどのような違いがあるか？	講義・演習
10回目	実習の報告に基づく対話④	講義・演習
11回目	実習の報告に基づく対話⑤	講義・演習
12回目	実習の報告に基づく対話⑥	講義・演習
13回目	実習の報告に基づく対話⑦	講義・演習
14回目	「チーム」をめぐる対話～よいチームとはどのようなものか？	講義・演習
15回目	「看護」をめぐる対話～よい看護（師）とはどのようなもの（人）か？	講義・演習
評価方法	以下のポイントを合算して評価する。1) フィードバックシート：10点満点×6回＝60点、2) グループでの実習の報告20点満点（チーム内相互評価）、3) 全体対話での発言1回あたり4点。	
受講生に対するメッセージ	授業は、実習の報告に基づく対話（7回）とテーマ（絵本）をめぐる対話（7回）から構成されます。実習の報告は、実習グループ（「チーム」）単位で行っていただきます。テーマをめぐる対話の準備として、フィードバックシートの設問に対して回答したうえで、授業に臨んでください。	
テキスト	使用しない。	
参考書	『死とともに生きることを学ぶ——死すべきものたちの哲学』（竹之内裕文著、ポラーノ出版）、『喪失とともに生きる 対話する死生学』（竹之内裕文・浅原聡子編、ポラーノ出版）	

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	心理学 1単位 30時間	
開講時期	1年次 後期	
担当教員	弓野憲一	
<p><科目のねらい></p> <p>質の高い看護には、人の心理学的な理解が欠かせない。この講義（一部演習）では、「心理学をなぜ学ぶか」から出発して、感覚・知覚、学習、記憶、知能と創造性、問題解決などの認知心理学的分野を学び、動機付け、葛藤と欲求不満についての行動的分野の理解を深め、発達と発達課題・発達障害について知り、自分のパーソナリティを測定し、悩みや心的な病気の発生メカニズムを理解し、それらの病気を克服するためのカウンセリングについて知る。さらによい人間関係をつくりだすための「様々なほめ言葉」をグループ演習の中で獲得する。</p> <p><到達目標></p> <p>1. 心理学的概念の基本的理解し、応用できる。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	心理学とは：心理学研究の歴史、心と体、なぜ心理学を学ぶのか？	講義
2回目	感覚と知覚：5感、感覚と知覚の違い、知覚の文脈効果	講義
3回目	学習：学習の三学説、経験に全依存しない言語の学習	講義
4回目	記憶：記憶のモデル、強い記憶獲得、短期記憶の性質（実験）	講義・小実験
5回目	動機づけ：その種類、欲求階層説、達成動機と民族・文化、	講義
6回目	葛藤と欲求不満：葛藤の種類、適応メカニズム、無意識と適応	講義
7回目	知能と創造性：測定法、両者の伸長法、両者の発達の違い	講義
8回目	創造的問題解決：新たな課題をブレインライティングで解決	講義・演習
9回目	発達とは何か：発達の理論、脳の発達、発達曲線	講義
10回目	発達段階と発達課題：知的発達の理論、段階相応の課題がある	講義
11回目	障害と発達：自閉症、AD/HD、うつ病、PTSD、燃え尽き症候群	講義
12回目	パーソナリティ：類型論と特性論、Y・G性格検査演習	講義・演習
13回目	ほめるの心理：知能、創造性、共感性に関する褒め言葉を創造	講義・演習
14回目	カウンセリングと傾聴：ロジャースの理論を学び傾聴訓練をする	講義・演習
15回目	試験	試験
評価方法	最終試験の成績（90%）と中間試験の成績（10%）を総合的に評価する。	
受講生に対するメッセージ	心理学を学ぶことによって、患者、周囲の人、自分自身についての理解が深まります。看護の世界でも役立つように、具体的な説明も加えますので、教科書の該当ページを予習して、講義に臨み、質問をすると、さらに学習が深まります。	
テキスト	心理学理論と心理的支援 中央法規	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	教育学 1 単位 30 時間	
開講時期	2 年次 後期	
担当教員	鈴木和正	
<p><科目のねらい・到達目標></p> <p>1. 教育学の中から看護に役立つ考え方や方法を見出し、広い視野で看護業務を遂行できる能力を養う。</p> <p>2. 教育問題や教育を人間の発達や社会との関係という点で考え、判断できるような基礎を培う。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	イントロダクション (良い学びとは? 過去の学びを振り返る、教育と看護について)	講義
2 回目	教育の今日的課題	講義
3 回目	人間の発達と教育	講義
4 回目	教育の思想・理念	講義
5 回目	教育の歴史西洋	講義
6 回目	教育と看護の歴史日本	講義
7 回目	看護師の歴史	講義
8 回目	医師・教育者 三田谷啓について学ぶ	講義
9 回目	新しい時代の世界的学力	講義
10 回目	「知識」か「考える力」か	講義
11 回目	教育の方法と技術	講義
12 回目	教育課程とカリキュラム・マネジメント	講義
13 回目	地域と学校・病院の関係	講義
14 回目	教師の職務と専門性	講義
15 回目	レポート課題	
評価方法	授業への積極的な参加、レポート課題とし総合的に判断します。	
受講生に対するメッセージ	テキストだけでなくプリントも使用し、実生活と教育を結びつけて考えられるように授業を進めます。また参加型授業形式を取り入れますので積極的な発言を望みます。教育学の学習を通して看護や実生活に役に立つ考え方や方法を見出してください。	
テキスト	佐々木司・熊井将太『やさしく学ぶ教育原理』ミネルヴァ書房、2018 年。	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	社会学 1単位 30時間	
開講時期	1年次 前期	
担当教員	洪 性旭	
<p><科目のねらい></p> <p>現代の健康・医療においては、生物医学等の自然科学のみならず、社会科学の視点から捉えることが重要となってきました。本講義では、人権を尊ぶ姿勢を基盤に、社会学の視座から人間の行為、社会集団、現代社会の成り立ちと諸問題等を捉える方法を身につけます。その上で、現代社会の中の健康・病気と医療を対象とする「医療社会学（健康の医療の社会学）」について学習します。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の基礎レベルの概念と理論に関する知識を身につける。 2. 社会調査を読み解くための基礎レベルの知識を身につける。 <p>現代社会における健康・病気・医療（教科書各章の内容）について、社会学の視座から述べるができる</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	ガイダンス、社会学の基礎 社会学の誕生、社会学の基礎概念	講義
2回目	社会学的視点とモデル 社会的行為と社会関係、地位と役割ほか	講義
3回目	保健医療と社会学 「社会的水準」の理解、保健医療社会学の視座	講義
4回目	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方 近代化とパラダイムシフト、近代医療の考え方	講義
5回目	社会調査の理論と技法（1） 学術調査と実務調査、量的調査と質的調査	講義
6回目	社会調査の理論と技法（2） 社会調査の読み方、作り方	講義
7回目	健康・病気の社会格差 健康格差・ヘルスリテラシーほか	講義
8回目	「働き方」「働かせ方」と健康・病気 日本の働き方の変遷、バーンアウトほか	講義
9回目	健康・病気行動と病経験 病気行動論の考え方、「病の語り」ほか	講義
10回目	患者-医療者関係とコミュニケーション 社会学におけるコミュニケーション、患者-医療者関係の捉え方	講義
11回目	性・ジェンダー・家族と保健医療 社会的カテゴリーとしての性・ジェンダーの捉え方ほか	講義
12回目	地域社会と保健医療 地域コミュニティと健康・保健との関係	講義
13回目	保健医療制度とその現代的変化 福祉国家の中の医療システム、日本の医療制度と国際比較の視座	講義
14回目	ケアと医療 「ケア」の定義と時代による変化、社会のあり方との関係ほか	講義
15回目	最終試験	
評価方法	小テスト 30%・最終試験 70%	
受講生に対する メッセージ	基本的に座学方式で進めますが、必要に応じてグループ・ディスカッションを行ってまいります。 随時、前回の授業内容を確認するための小テストを行います。必ず復習すること。	
テキスト	『系統看護学講座 基礎分野 社会学』医学書院 毎回、授業資料を配布します。	
参考書	中川輝彦・黒田浩一郎、2010『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房	

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	人間関係論 1単位 30時間	
開講時期	1年次 後期	
担当教員	玉井紀子	
<p><科目のねらい></p> <p>心理学の概念や理論を基礎として、様々な視点から「人間関係」について学ぶ。人間関係を構成する自己と他者について、他者との関係の形成や他者から受ける影響、組織や集団での起こり得る現象などから、人が他者と人間関係を築く際の態度や行動について理解を深める。また、人権を尊ぶ姿勢をもち、幼児から高齢者まで発達段階や環境の違いなどを踏まえた多様な患者とその家族と接する際のスキルの基本を身に付け、多職種連携・協働における人間関係の理解、看護師として留意すべき点について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人が他者と人間関係を築く際の態度や行動について理解を深める。 2. 多様な患者とその家族と接する際のスキルの基本を身に付ける。 		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	オリエンテーション・人間関係論とは	講義
2回目	援助者としての自己理解①（自己概念の発達）	講義
3回目	援助者としての自己理解②（自己のモニタリング）	講義・演習
4回目	人間関係の基礎研究①（対人関係）	講義
5回目	人間関係の基礎研究②（集団）	講義
6回目	カウンセリング（心理療法）に関する理論	講義
7回目	カウンセリング（心理療法）を体験する	演習
8回目	発達に応じた人間関係①（子どもとの関わり）	講義
9回目	発達に応じた人間関係②（高齢者との関わり）	講義
10回目	人間関係をアセスメントする	講義・演習
11回目	人間関係を築く面接法	講義・演習
12回目	家族理解に関する人間関係①（虐待・DV）	講義
13回目	家族理解に関する人間関係②（家族支援）	講義
14回目	援助者の人間関係（チーム医療、多職種連携と協働）	講義
15回目	終了試験と結果の解説	講義
評価方法	授業中のショートレポート 20%・終了試験 80%	
受講生に対するメッセージ	講義が中心ですが、自己理解等の演習も行います。	
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	文化人類学 1単位 15時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	山本達也	
<p><科目のねらい・到達目標></p> <p>1. 医療、看護という実践者が文化人類学という学際的な視野を持つ。</p> <p>2. 文化の違いによって異なる病気・死に対する考え方を理解し、医療実践の際に資する見識を身につける。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 序論・文化人類学とは？	講義
2回目	1. 文化に優劣はある？ 文化進化論と文化相対論	講義
3回目	1. チベット医学から西洋医学を捉え返す	講義
4回目	1. 死に対する態度を学ぶ 「チベット死者の書」より	講義
5回目	1. 生死と医療 「解脱の家」から	講義
6回目	1. 生死と医療② 病と疾病	講義
7回目	1. 死と向き合う多様な医療のあり方—まとめにかえて	講義
8回目	終了試験	講義
評価方法	筆記試験 100%	
受講生に対するメッセージ	教科書のみならず、インドやネパールでの経験を元に授業を進めていきます。楽しく学んでいきましょう	
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	英語 I 1 単位 30 時間	
開講時期	2 年次 前期	
担当教員	河村道彦	
<p><科目のねらい> 看護・医療現場で必要とされる英語の基礎力の向上を目指す。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師として適切な態度で英語を用いて意思疎通を図ることができる 2. 基本的な文法事項を理解し、看護・医療領域の話題に活用できる。 3. 看護・医療にかかわる基本的な語彙の意味を理解できる。 4. 医療現場において患者と英語で簡単なやりとりができる。 		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	授業概要 および Unit 1: Power of language	講義・演習
2 回目	Unit 2: Don't worry.	講義・演習
3 回目	Unit 3: How may I help you	講義・演習
4 回目	Unit 4: How are you feeling?	講義・演習
5 回目	Unit 5: Could you fill in this medical questionnaire?	講義・演習
6 回目	Unit 6: Take the elevator, please.	講義・演習
7 回目	Unit 7: What are your symptoms?	講義・演習
8 回目	まとめ・中間試験	講義・演習・試験
9 回目	Unit 8: Where does it hurt?	講義・演習
10 回目	Unit 9: How long have you had these symptoms?	講義・演習
11 回目	Unit 10: I'm going to take a blood sample.	講義・演習
12 回目	Unit 11: Let me take your vital signs.	講義・演習
13 回目	Unit 12: Your surgery will be tomorrow.	講義・演習
14 回目	Unit 13: There are three kinds of medicine.	講義・演習
15 回目	まとめ・期末試験	講義・演習・試験
評価方法	筆記試験の成績を基本とし、これに平常点（授業内外での取り組み）を加減します。 中間試験 50%・期末試験 50%・平常点 +/-10%	
受講生に対するメッセージ	積極的な授業参加を期待します。	
テキスト	Maki Inoue & Toshiya Sato. 2019. <i>Lifesaver: Basic English in medical situations</i> . New edition. Cengage Learning.	
参考書	英語辞典（看護・医療用語の語義を検索できるもの）	

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	英語Ⅱ（オーラルコミュニケーション） 1単位 15時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	ショウラー ロバート ダグラス キャンベル	
<p><科目のねらい・到達目標></p> <p>1. 医療現場で活用できるように英語力を身につける。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 英語表現（スピーキング） 1) 外来での会話	講義・演習
2回目	2) 入院時の会話	講義・演習
3回目	3) 緊急時の会話	講義・演習
4回目	4) 患者の観察	講義・演習
5回目	2. リスニング 1) 外来での会話	講義・演習
6回目	2) 入院時の会話（病歴聴取）	講義・演習
7回目	3) 患者の観察	講義・演習
8回目	終了試験	
評価方法	7回の小テスト（毎回） 筆記試験（1時間）	
受講生に対するメッセージ	<p>※必須事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レッスンプランにそった CD を使った予習 ・ 授業中の日本語の使用禁止 	
テキスト	「ホスピタルイングリッシュ Vital Signs」 南雲堂	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	体育 I 1 単位 15 時間	
開講時期	2 年次 前期	
担当教員	望月計宏	
<p><科目のねらい・到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動を通して健全な身体と精神を養いストレッチで、筋力の柔軟性と筋力を高める 2. 運動は、ケガの予防及び心身のリラクゼーションにも効果的であることがわかる。 3. 過度の肉体労働やスポーツの前後における柔軟体操として知識の習得と基礎体力作りができる。 		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	自己紹介・ストレッチ・キャッチボール・ドッジボール・サッカー他	実技 (望月)
2 回目	ストレッチ・キャッチボール・対人パス・サーブ練習	実技 (望月)
3 回目	ストレッチ・チーム別パス・サーブ練習・バレーボールゲーム (トーナメント)	実技 (望月)
4 回目	ストレッチ・移動パス・スパイク練習・バレーボールゲーム (トーナメント)	実技 (望月)
5 回目	ストレッチ・移動パス・スパイク練習・バレーボールゲーム (トーナメント)	実技 (望月)
6 回目	ストレッチ・直上パス・試合形式パス・バレーボールゲーム (トーナメント)	実技 (望月)
7 回目	ストレッチ・スキルテスト・試合形式パス・バレーボールゲーム	実技 (望月)
8 回目	バレーボールゲーム・テスト	望月
評価方法	実技試験やゲームにおける記録などを参考にし、学習態度や参加意欲を重視する。	
受講生に 対する メッセージ		
テキスト		
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	体育Ⅱ 1単位 15時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	羽根田三生	
<p><ねらい・到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動を通して健全な身体と精神を養いストレッチで、筋力の柔軟性と筋力を高める。 2. 運動は、ケガの予防及び心身のリラクゼーションにも効果的であることがわかる。 3. 過度の肉体労働やスポーツの前後における柔軟体操として知識の習得と基礎体力作りができる。 		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	自己紹介・体のゆがみ、体力テスト・リラクゼーション	実技(羽根田)
2回目	テーマ「おなかについて」ウォーミングアップ・柔軟筋力・リラクゼーション	実技(羽根田)
3回目	テーマ「背中について」ウォーミングアップ・背中のストレッチ・リラクゼーション	実技(羽根田)
4回目	テーマ「下半身について」ウォーミングアップ・下半身のストレッチ・リラクゼーション	実技(羽根田)
5回目	テーマ「上半身について」ウォーミングアップ・上半身のストレッチ・リラクゼーション	実技(羽根田)
6回目	テーマ「おなかについて」ウォーミングアップ・おなかのストレッチ・リラクゼーション	実技(羽根田)
7回目	テーマ「背中について」ウォーミングアップ・背中のストレッチ・リラクゼーション	実技(羽根田)
8回目	総まとめストレッチテスト・リラクゼーション	羽根田
評価方法	羽田：授業態度と理解力・出席状況、実技等による総合評価	
受講生に対するメッセージ		
テキスト		
参考書		